

図工美術部会 理論研修会 終了報告

テーマ	「大切なものをつくり出すために」～授業改善を踏まえた題材づくりと指導の工夫～	
日時	令和 元年 7月 18日(木)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	阿部 宏行 氏 (肩書:北海道教育大学 岩見沢校 美術文化教育コース 教授)	
参加者	約 34名	
研修会 の 様子		<p>《学習指導要領の改訂のポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもをみんなで育てる「社会に開かれた教育課程」 ・目標の共有 資質・能力の明確化 社会との共有・連携 ・「考える」から「学ぶ」へ 子どもの視点で考える教育課程づくり ・主体的・対話的で深い学びの授業改善 ・題材のまとまりで考える授業改善 ・見方、考え方を働かせて教科の本質へ「意味や価値をつくりだす」
		<p>《図画工作科の改定のポイント》</p> <p>3つの柱 ①思考力・判断力・表現力等 ②技能 ③知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題材の重要性 ・育成する資質、能力から「目標及び内容」を設定する ・指導事項の指導の計画
		<p>《共同制作(対話することの意味)》 「15分で美しいタワーをつくる」</p> <p>受け入れる 発信する …必然が対話を生む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意味や価値をつくる(自分をつくる) ・つぶやきは自分との対話 ・心も表情も同じ やる気(意欲)がエネルギー <p>共同制作は対話を通して学ぶ価値ある活動であることを再認識できた。</p>
		<p>《学習評価》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを理解すること ・評価は子どもが好きになること(指導は子どもが図工・美術を好きになること) ・育成する資質・能力を考えるが大切 その際、「知識」と「技能」の連動性を考えること 実践例「小刀で鉛筆を削る」 <p>実際に削る体験を通して、身につけさせて評価につなげるよい例だった。</p>
		<p>《子どもの視点で授業を見直す》</p> <p>「つまらない」は、おもしろくない</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもしろくないと 身(心)が入らない ・身が入らないから 身(実)にならない ⇒おもしろいから「身に付く」 ⇒好きになる 得意になる <p>以上、子どもの思いを大切に表現させることをめざした授業改善、題材づくりと指導の工夫が大切であることがよくわかる理論研修会だった。</p>

